

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290300134		
法人名	メディカルケアサービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム千葉園生		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町406-88		
自己評価作成日	令和8年1月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	令和8年2月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月、外出の機会を設け、気分転換を図るようにしています。春は花畑、夏は室内でショッピング、秋は観光地巡りなど。また目の前にスポーツセンターがありますので、季節を感じながらの散歩を楽しんで頂いております。ホーム内でのイベントも毎月行っており、ポッチャや外国人スタッフによる料理イベントはご家族様にも参加して頂き、よい交流の機会となりました。また、公民館に本を借りに行ったり、フラダンスサークルさんに来ていただいたりと、地域との交流も持つように心掛けています。一人一人の自由な生活を尊重しているため、決められた時間管理の生活ではなく、その人に合わせた生活が送れるように気を配っています。具体的にはお食事やご入浴のタイミングをその方に合わせて対応しております。またエアーマットやリクライニング、酸素濃縮器を使い、訪問医の力も借りながら、その人らしい生活が最期まで続けられるように、尽力をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は運営理念に基づき、利用者の自由な生活リズムを尊重し、その人らしい生活が送れるよう配慮されている。また、法人での運営理念とは別に、事業所での運営理念を掲げており、なかでも、個々の自由な生活を尊重するを一番に掲げている。それを軸としてユニット会議やケアプラン作りを行っており、多彩な行事を実施している。個々の希望に応じ、入浴のタイミングを柔軟に調整することで、その人らしい暮らしを実現している。毎月の外出(ショッピング、スポーツセンター、公民館図書、フラダンス招致など)を計画的に実施し、ホーム内イベント(ポッチャ、外国人スタッフによる料理イベント)も継続している。外出計画は月担当制で半年前から季節・地域資源調査等に基づく行先選定により計画的に実施しており、施設内の車椅子でも参加可能なポッチャは、民生委員の協力による競技ボールを使用し、利用者の健康促進と生きがいづくりに貢献している。個別尊重の生活支援と医療連携に力を入れて、一人ひとりが安全で自由な生活を満喫できるよう工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				1/9

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人での運営理念とは別に、事業所での運営理念を掲げており、なかでも、個々の自由な生活を尊重するを1番に掲げる。それを軸としてユニット会議やケアプラン作りを行っている	事業所での運営理念に基づき、「個々の自由な生活を尊重する」を1番に掲げ、利用者を最優先に考えた働きやすい環境づくりを実践している。入浴スケジュールについても、入居者の希望を優先し磁石付きのネームプレートホワイトボードに張り替えて見える化するなど、工夫し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	フラダンスなどのボランティアや、以前入居されていたご利用者のご家族が遊びに来られている。 近所の方のお庭で御入居様が過ごさせていだいたりお付き合いをさせていただいている	地域との関わりが減少しているため、感染症対策は継続しつつ繋がりを深めるため、自治会や関係地域機関への挨拶を重ね、夏祭をはじめとする地域行事への参加や、地域のボランティア団体の受け入れを進めている。近隣住民との関係は良好で、地域の方がホームへ来られたり逆に近所のお宅へ伺ったりと行き来し利用者との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	会社として取り組んでいる、事例研究を毎年9月に外部の方をお呼びし、報告をさせて頂いている。お電話で利用問い合わせがあったときは、困り事の内容によって、別のサービスをご案内している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、包括、ご家族様にご参加を頂き、写真付きの報告書にて報告を行っている。また、事故の報告も行い、第三者の意見も聞かせて頂いている。	運営推進会議は年4回実施し、現状報告、行事計画、事故報告、研修報告などを共有している。意見交換では、いろいろなグループホームを回ってこられた自治会長さんから、いろいろ参考になる情報や取り組みなどを紹介いただき、サービス向上につながっている。また、写真入りの報告書をご家族へ報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事故発生時や報告、疑問点は常に連絡をとって、関係を築くよう取り組んでいる	市町村との関係は、緊密に取り合っている。事故報告や運営上の疑問点について月に1回以上、高齢者支援課へ相談に行っており、身体拘束に当たるかどうかの微妙な案件についての相談など、入居者の安全を守るための取り組みについてアドバイスをいただいている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、虐待チェックシートを用いて、全スタッフに日々チェックを行わせている。また、3か月に1度虐待の研修を行い、日々高い意識で支援をするように声掛けをしている。	本社から3ヶ月毎にテーマが配布され職員全員への周知と、「虐待・不適切ケア・身体拘束防止の取り組み」などの定期研修を実施し「利用者への敬意」「説明と同意を得たケア」「丁寧な言葉遣い」を徹底している。玄関の施錠については、単純に鍵をかけるだけでなく利用者本人の気持ちを大切に、寄り添い適切な対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束、虐待の研修を3か月に1度行い、日々高い意識の元支援が行えるように努めている。またグレーゾーンの段階から気づけるように注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修を年に1度行い座学にて学ぶ機会を設けている。成年後見制度に関しては地域ケア会議に参加し講義を受けてくるなどの勉強をおこなっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は全ての内容を読み合わせし、都度疑問点がある場合はお答えし、納得するまで、何度も読み合わせを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々のご要望は電話やLINEやお手紙にてお知らせを頂いている。また、毎月の愛の家通信の中に疑問点を回答することもしている。第三者にも意見を求める際は、運営推進会議を活用し、話し合っている。	利用者や家族からの意見や要望は、日頃から電話、LINEやお手紙などから頂いており、都度検討できる範囲で対応している。おむつパッドとか量もこまめに連絡が欲しいというご意見に対して、スタッフが丁寧にその使い方などを含めて、状況を説明している。苦情や要望を言い出しにくいご家族もいるので、ご家族には来ていただきお部屋でゆっくりしたりスタッフのかかわりをより深めて欲しいと伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に面談を行い、心と体の健康状態や困りごとについてお話してもらっている。またLINE等も使い言いにくいことも表出できるようサポートしている	全体会議や日常の会話では利用者に関する意見交換が多く、特に転倒防止等について議論されている。また、職員のアイデアで、見えるところにホワイトボードを設置して不足物品などを記載することとしたところ、「足が寒いのでレッグウォーマーが欲しい」、みんなから「早く買ってきて」と、ハートマークが沢山ついた。実施に購入の運びとなった好事例である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を用い、本人のできている事やできていない事を明確にし、一人ひとりに合わせた目標を設定する。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修があれば積極的に参加してもらっている他、法人内の研修は毎月行い、どこにいても研修が行えるよう動画も配信をしている。また、資格の補助制度もあり、各職員がスキルアップが容易に行える環境整備に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	安心ケアセンター主催の地域ケア会議に出席するなど、専門性を高め、質の向上をめざしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、必ずご本人にお会いし、ご本人の望む支援を実現できるように努めている。またその情報はフェイスシートにし全スタッフで共有をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学、契約時等に家族に困っていること、不安なこと、要望に耳を傾け、家族とも話をして、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人が必要なサービスを見極めるために、自宅での生活環境や、過去の生活歴を聞き、必要なサービスやケアを見極め、ケアプランに掲示し支援をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一つの大きな家でそこに生活するご入居者様はもちろん、スタッフも家族という認識のもと、ご本人のできる事を生活の中で見つけ料理や洗濯、植栽等を行い、共存をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご来所の制限を設けず、好きな時に好きな時間来所が行えるように、またいつでも外出が行えるように日々ご家族様とご本人の状況の共有を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご自宅にご一緒に戻り、昔からお付き合いのあった方の自宅に訪問しお茶を飲んだり、ホームへの面会希望はご家族了承のもと積極的にお受けしております。	自宅で息子が待っていたり、旧友の自宅へ訪問してお茶を飲んだり、訪問への面会希望は家族了承のもと積極的に受けている。人的配置や移動手段については計画的に行っており、施設長やケアマネが担当することもあり、全職員でのサポート体制を組んでいる。キーパーソン以外の大切な人との交流を継続するためにも、来所される方がどなたか事前に伝えていただければ対応しますとご家族へ周知している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し、レクリエーションやイベントで仲良くなれるよう、仲介したり、なか良くなれない時は席替えをして関係が悪化しないよう配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、共に食事をしたり、退居後のご入居者様が遊びに来たり、ご会葬に参列をしたりと関係が継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自身の気持ちを出するのが難しいご入居者様に対して「ひもときシート」と使うなど、その人その人の本心に気づけるよう努力している	利用者の思いや意向を把握するために、当ホームでは認知症の人の言動の背景にある理由や気持ちを本人の視点で理解する「ひもときシート」を活用し、各利用者の深層を捉えるよう努めている。意思表示が難しい人には焦点情報(24時間シート)を用い、気分や行動、生活リズムの変化を24時間の流れで捉え、影響要因の把握に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に必ずご本人と面談を行い生活歴や現在のADL、QOLを把握し、フェイスシートに記載の上、全スタッフで共有をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各個人によって1日の過ごし方は違うことから、その人にあった生活。入浴の回数や時間。食事の回数や時間。趣味に配慮し生活をして頂きたい。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族とは日々の変化を密に報告しながら、ご意向もうかがっている。ご本人自身がご自分の気持ちに整理がついてない時でも、言語化をサポートしながらご意向を伺っている	家族とはLINEを用いて現状を共有し、そこから意向を確認しながら支援方針を検討している。意思表示の難しい人には焦点情報(24時間シート)を活用し、断片的な言葉や行動を繋いで家族へ状況を説明し理解を得ている。そのため夕方に話し合いの時間を多く確保している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランはスタッフが記録を書く上で把握をしやすいように分かりやすく掲示するとともに、モニタリングシートを活用しケアマネジャーと職員が日々情報交換が行えるようにしている。またスタッフノートを活用し、日々の些細な情報も共有を行える環境を作っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面談の時間を設けず、ご家族様がいつでもご来所し、好きな時に外出が行えるようにしている。また、個別のレクリエーションにも対応出来る限り対応をし、ご本人の望む支援が行えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	草野公民館での催しを見に行ったり、図書館を利用したりと地域資源を利用している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居前からのかかりつけ医には継続で診療をして頂いている。往診医とは24時間連絡がとれる関係にあり、入院や手術にも対応してくれている。	入居前から通院している脳神経外科には家族が付き添って受診している利用者が1名おり、内科は全員が提携医による訪問診療を受けている。提携医は夜間救急病院でもあり、夜間の対応体制が確保されている。メディカルケアステーションというソフトを用いてチャットにより主治医、訪問看護師、ホーム、薬局が連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週、同じ訪問看護師による定期健康チェックがあり、勤務時は職員と打ち合わせを交えながら、ご入居者様の健康チェックを行っている。 また、希望時には別途個別にて訪問看護契約。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際にはこまめに家族や病院関係者と連絡を取り、普段から病院関係者と関係を築き、安心して治療を受け、早期退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化指針はご入居時にご説明をさせて頂き、尚且つ看取り前段階での今後の在り方等は、ご入居者様のADLに合わせ行っている。重度化時にQOLが落ちないように支援に注意を払っている。	今年度は看取りが2件あり、食事量の低下や体力の衰え、睡眠時間の増加などの変化が見られると医師に相談し指示を仰いでいる。看取り方針が決まるとユニット会議で共有され看取り研修が行われる。ホームでは亡くなる前にできることを大切に、支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や事故発生時のマニュアルはもちろん、ご入居者様の個人の緊急時の対応マニュアルも一部の方は整備をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	半年に1度、日中想定と夜間想定にて避難訓練の実施を行うとともに、消火器の場所や避難経路、火災通報装置の使用方法も確認を行っている。水害時の避難場所なども事前に把握いつでも閲覧可能な状態にしている。	5月と11月に火災を想定した訓練が実施され、避難時には動線の確認に加えて物品の配置状況も併せて確認している。BCP訓練としては、会社規定に基づきポータブル充電器やソーラー電池の使用方法を年2回訓練し、災害時の対応体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	出来る限り入浴時は同性のスタッフでご支援をする他、居室には鍵を設けたりとプライバシーの配慮を行っている。 また、ご本人の居室をプライベート空間であると職員一人ひとりが認識するよう、伝えていきます。	プライバシー確保の観点から入浴と排泄に特に注意を払っており、入浴時は同性介助を徹しカーテンを閉めて外から見えないよう配慮している。排泄時は状況を大声で伝えたり他者に分かる声掛けを避け、必要に応じて利用者がカードで意思を示す工夫を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	目の見えないご入居者様に触ってお洋服を選んでいただったり、自己決定をサポートしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の基本時間は決まっているが、朝寝坊も良いし、お食事が2回でも良いし、夜お風呂に入りたくいという思いがあれば、出来る限り希望に沿う支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧を毎日行えるために化粧道具の準備や、化粧台の設置。髪のご入居者様へは髪の手入れ。お洋服の新調は職員と一緒に買い物へ行かれます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	全く飲み込めなくなった方に対して味だけ見ってもらったり、お魚の形を見てもらってから刻みにしたり、見て楽しめるよう配慮している。できる方にはとりわけをお願いしたり、食器の片づけを一緒に行ったりしている	食事は時間を限定せず本人に合わせて提供し、料理の見栄えにも配慮して楽しんで食べられるよう努めている。共同生活の一員として手伝いを依頼し食事を楽しい時間として意識づけている。提供料理については食べる前に説明し、何を食べているか理解できるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量が少ないご入居者様にはアラートが表示されたり、嚥下機能に応じてトロミやゼリーを作って水分不足にならないよう配慮している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	普通の歯ブラシ以外にも歯間ブラシ、ポイントブラシ、口腔スポンジ、口腔ガーゼを使い分け、その方に合った口腔ケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位保持が難しくなった方でも、職員二人でトイレでの排泄を介助し、トイレで排泄できるよう支援している	トイレを生活の一環として捉え、困難が生じてきた人にも職員二人で介助しながらトイレに行く支援を続け自立に繋げている。職員は会社支給の携帯で排泄チェック表を確認しつつ誘導している。こまめな誘導を重ねることで失敗が減り安心感が生まれ、トイレ回数や不穩の減少にも繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬での排便は最終手段とし、ヤクルトや牛乳、ヨーグルト。便秘に効く食材の取入や排便のタイミング、排便時間を管理し、排便が-3日以上にならないように配慮をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ホワイトボードを使い同性介助となるように御入居者様の入浴日と勤務職員を調整したり、ご入居者様の気持ちに合わせて臨機応変に入浴日を変更できるようしている	入浴は同性介助を原則とし、該当職員が不在の場合は時間をずらすか日を改めて対応している。信頼関係により異性介助でも可能な場合もある。寒さを理由に拒む人には「入って暖かくなりましょう」と声掛けを工夫し入浴に繋げている。季節に応じてゆず湯やしょうぶ湯も提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆたぼんをご入居者様の人数分用意してお布団を温めたり、湿度や気温に注意している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報は全スタッフがわかるようにファイリングをしている他、特殊な使用方法(吸入)のお薬は別に資料を用意し、ユニット会議等で使用方法や使用意義の再確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	植木の剪定が得意なご入居者様にホームの木を切ってもらったり、お花の先生だった方にお花を活けてもらったり、お針子だった方にほつれを治してもらったりしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月ごとに行事担当スタッフを決め、外出先の相談をご入居者様と一緒にいるなど、ご入居者様の希望を拾いやすくしている	外出や散歩が難しい日は庭で日向ぼっこをして外気に触れる機会をつくり、千葉県総合スポーツセンターへ散歩に出かけることもある。今年度はコスモスの咲く御成街道へドライブに出かけた。草野公民館内の図書館へ職員と行き本を借りるほか、家族が自宅や以前住んでいた町内会の敬老会に連れ出す機会もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	色々な店舗が入っているワンズモールにお連れしてほしい物を購入して頂いたり、お洋服が欲しいというご入居者様とお洋服を選びに行ったりしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お友達からのプレゼントやはがき等が届いたときは、できるだけ速やかにお礼の言葉を電話でお伝えできるようサポートしている(ご本人が忘れてしまう前に)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物だけでなく置物など、季節感が合わないことがないよう配慮している	利用者の共同制作物を廊下や階段に掲示し、それを見て会話が弾んでいる。制作の過程でも利用者同士の交流が生まれ楽しい時間となっている。ホールは車いす利用者が通りやすいよう廊下幅を広く確保し、目の不自由な人にはソファを配置して安心して過ごせる空間としている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	目の見えない被害妄想の強い方に、リビングで過ごされる方の話声は聞こえにくい音楽は聞こえる位置にソファを移動して休んで頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ショートステイに来ているだけでなくすぐに家に帰るといった設定の方以外は、ご自身の馴染みの家具をお持ち込みいただき、落ち着けるようにしている	ショートステイとして納得して入居した利用者には、不信感を抱かせないよう私物を最小限にしている。それ以外の利用者には、家で使っていたソファやいす、テーブル、コップなど馴染みの物を持ち込んでもらい、安心感を高め不穏をなくすようにしている。居室間の往来は多くないが、相手の部屋で雑談を楽しむ様子も見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内で転倒しないように同線を考えた家具配置にしたり、シルバーカーや歩行器を立ち上がる場所に置くようにしたり、配慮している		